



◆除染に関する情報の共有は有意義



コープふくしま
専務理事 野中 俊吉氏

コープふくしまでは、NPO法人放射線安全フォーラム副理事長の田中俊一氏ら、専門家のご指導を受けながら、除染に関してさまざまな取り組みを続けています。たとえば、独自に考えた「我が家の除染方法」をご紹介したり、線量の高いお宅に直接伺って除染に関する相談に応じるほか、郡山市の若いお母さんたちと一緒に除染をし、線量が下がることを体験してもらっています。このほか町内会の除染作業のための道具の無料貸し出しも行っており、先日も公民館の除染にお使いいただきました。

さらに、食料に含まれる放射線の調査にも時間をかけています。こうして得られたデータは福島環境再生事務所で集約して共有し、有効に使えればと思います。事務所を拠点に、除染活動が進んでいくことを期待します。

(「福島環境再生事務所」開所記念シンポジウムの発言より)

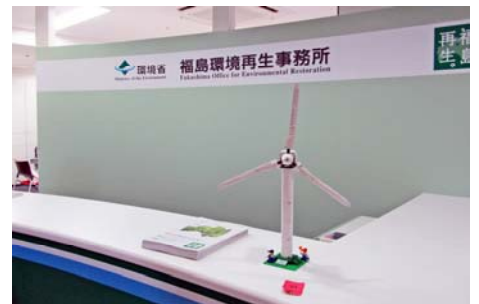
除染活動推進の拠点オープン

環境省が1月4日付けで福島市に設置した「福島環境再生事務所」の開所式と記念シンポジウムが21日に行なわれ、細野豪志環境相や佐藤雄平県知事、県内市町村長など約60人が出席、コープふくしま専務理事の野中俊吉氏はシンポジウムのパネルディスカッションに招かれました。この事務所はウェブ上の「除染情報プラザ」(2月下旬に閲覧室設置予定)とともに政府直轄の除染事業の管理と市町村による除染活動支援の拠点とされています。

パネルディスカッションでは、今後の除染活動に関して意見が活発に出されました。野中専務は、コープふくしまのこれまでの活動を報告、「行政やNPO法人など各分野の(放射能問題の)研究情報を共有できる『場』として事務所に期待します。不安を抱えて生活している住民の皆さんのために有効だと思います」と述べました。



パネルディスカッションでは福島未来について活発な意見が交わされた。



福島環境再生事務所エントランス。

コープふくしま・組合員の交流会開催



備蓄の大切さなどが話題に。



振りをつけながらみんなで楽しく歌う。「楽しいところに人は集まってくるんです」(古瀬さん)

1月26日、年に一度コープふくしまの組合員が一堂に集まる「ワァ〜いわい交流会」が開催されました。今年で8回目、震災後初の開催となった今回のテーマは「みんな笑顔になれたらいいね」。約100人の参加者は「これからの組合員活動」「震災を踏まえて考える・これからのライフスタイル」の2つから希望するお題を選び4〜6人のグループに分かれ、話し合いました。

震災後の活動や暮らしにおけるアイデアの共有はもちろん、声を出し明るく話をする時間となるようにも配慮され、「福島県内市町村ビンゴ」などのアトラクションでは会場には笑い声が。実行委員長古瀬聡子さんは「交流会が始まった8年前は、福島にこんなことが起こるとは思ってもいませんでした。『あのときは大変だったね』と穏やかに思い返せる8年後を迎えるために、まずは笑顔を」と話していました。

◆リレー寄稿
～再建に向けて



釜石市職員生協
専務理事 佐々木 孝氏

東日本大震災の発災から、あと1カ月程で、1年となりますが、当生協の状況につきまして、ご報告いたします。

震災の被害を受け、店舗が全壊したこともあり、生協の存続について、4月21日の理事会、8月9日の総会にはかったところ、全員の賛同を得、再建に向けて取り組むこととなりました。

その後、9月1日からは、釜石市役所の分庁舎脇に、狭いながらもコンテナの仮設店舗を設置し、店長とパート職員の2人体制で再開することができました。

仮設店舗での再開にあたり、日本生協連様をはじめ、さまざまな方面からの資金面やアドバイス等、多くのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

まもなく、新たな店舗も、庁舎内の以前とほぼ同じ場所にオープンします。仮設店舗の約2倍の広さになることから、現在は、その準備に取り組んでいます。

離島・大島に灯油を無料配達

いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまでは、全国の生協及び組合員からの募金を活用し、生協の灯油配達利用登録者に初回の灯油 18ℓと灯油缶収納ボックスを無料で提供しています。みやぎ生協では、1月21日に宮城県漁協の協力のもと、気仙沼の離島・大島へ灯油と灯油缶収納ボックスの無料配達を実施しました。同時に全国から寄せられた灯油ポンプや使い捨てカイロ、消毒ジェルも配布し、多くの方に喜ばれました。収納ボックスには全国からの善意である旨の「がんばろう東北！」ロゴ入りステッカーが貼ってあります。共同購入（宅配）商品部統括の菅原桂氏は「ステッカーで住民とわれわれの心の交流が広まると思います」と話していました。交通が不便な離島は被災後の対応が特に懸念されており、継続的な支援が求められます。



ローリー車で、灯油が運ばれてきた。



この日の灯油配達を心待ちにしている住民も多かった。

<ひと>



「代わりに伝えていきたいと思いました」

コープかながわ
ハーモス深谷店 竜崎 浩さん



「二人」（被災から137日目）：竜崎 浩さん撮影

「私たちがつらくて被災地の写真を撮れなかったときに、代わりに写真を撮ってくれた方がいるんです」「つなごろう CO・OP アクション情報」編集部が竜崎さんを知ったきっかけは、いわて生協の理事の言葉でした。コープかながわの竜崎さんは、7月4日から8月5日にかけて岩手・けせん地区で被災地の組合員拡大の活動を行ないました。悲惨な現場を目の当たりにし、言葉が出なかったそうです。この情景を、ただ見て終わりではなく、多くの人に伝えていかなければと思い、撮影を行ないました。

「つらくてカメラを持つ手を下げてしまったこともありました。でも、いわて生協の職員や理事の思いを

くみとり、『私が代わりに伝えていかなければ』と思ったのです」（竜崎さん）。

この写真は、コープかながわの組合員（旧理事）の協力のもと、さまざまな店舗やイベントで展示され、カンパ活動や多くの組合員が現地の様子を知るきっかけとなりました。

「生協は何かあったときに、全国から駆け付けることができる組織です。そういった意味でも生協・共済の加入者をもっと増やして『たすけあいの輪』を広げていきたいですね。」

【一言メッセージ】

- ・福島の問題は、世界の問題です。福島だけでなく、みんなで考えていく問題です。（福島・Nさん）
- ・継続的な交流は、相手の本音が聞け、適切な支援へとつながります。（神戸・Uさん）

◆真崎わかめ復興に 向け支援進む



トラック贈呈式。

いわて生協「産直アイコープ真崎わかめ」の産地である田老町漁協は、震災により甚大な被害を受けましたが、春の収穫に向けて作業を進めています。いわて生協では、組合員からの募金を利用して購入したトラックを2月2日に1台贈呈しました。また、2日から3日にかけて「真崎わかめ復興応援学習会」を開催、多くの人が参加しました。

◆地元食材の恵方福巻 で幸福祈念



みやぎ生協販売の恵方福巻。

みやぎ生協では、節分の恵方福巻に地元の食材を使用して販売しました。宮城県奥松島産ののりに、7種類の具材を巻き込み、しゃりりは、宮城県産米を100%使用しています。使用するのりは開運招福を願い、仙台市内の神社で祈念を行なったそうです。節分当日の2月3日は、多くの人が1年の幸福を願って恵方福巻を買い求めていました。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

●ふれあいサロンボランティア募集説明会（1/10～12、19、20）●手作りのひな人形カードを被災組合員に贈る取り組み呼びかけ●原発・エネルギー問題を考える学習会（1/25、2/17）●宮古以南の沿岸被災市町の社協や災害ボランティアセンターへの訪問・定期的な情報交換スタート●「遠野まごころネット」定例会議及び「陸前高田市ネットワーク連絡会」参加スタート●南昌荘「ひなまつり」（被災者入園無料、2/4～3/4）

【宮城県】

みやぎ生協

●応急仮設住宅入居者への灯油登録初回配達 18ℓ とポリ缶収納ボックス無償提供継続●津波浸水エリアの訪問とお役立ち提案●コープこうべ組合員と気仙沼市の仮設住宅居住者の文通●名取市美田園の仮設住宅のふれあい喫茶（サークル「方言を語る会」合同開催、毎月第4土曜日）●仮設住宅住民と一緒に雑巾を縫って避難所だった学校に贈る取り組み（タオルはコープこうべ寄贈）●若林区・泉区のまちづくり推進課との連携スタート●宮城県に被災者生活再建に関する要望書提出

【福島県】

コープふくしま

●ワァ～イわい交流会開催（1/26）●みんなのふれあいひろば（1/27）

福島県生協連

●福島の子ども保養プロジェクト（毎週末開催）

【茨城県】

茨城県生協連

●東日本大震災復興支援映画「エクレールお菓子放浪記」上映支援（水戸、土浦、2/14・21）●放射能報道と消費者の課題講演会（2/21）

【パルシステム連合会】

●会津若松市内の仮設住宅への買い物・雪かき支援●登米市の東京災害ボランティア支援、会津若松市の買い物支援に定時職員派遣開始（パルシステム東京）

支援募集情報

○いわて生協：ふれあいサロンで使用する、お菓子（各地の名産品など）や、ぬりえ、色鉛筆など募集しています。連絡先は、いわて生協組織本部 中村 弥生さん（019-603-8299 月～土9:00～18:00）まで。

○食のみやぎ復興ネットワーク：「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JAいしのまき」に海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん（022-772-6141）まで。

○福島県生協連：「福島の子ども保養プロジェクト」の①スタッフ、②4月以降の大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画（日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等）を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本喜代江さん（024-522-5334）まで。（保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください。）



つなごろう CO・OP アクション情報
(隔週発行・次回2月22日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会（会員支援本部出版部）
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-2-9-8 コーププラザ11F
Tel：03-5778-8183 / Fax：03-5778-8051
action@coop-book.jp



【一言メッセージ】

・地域の団体と連携し活動していくことが、継続的な支援を行なうにあたって必要な要素となっていくと思います。（大阪・Nさん）